

## 2月2日は、何の日？

早くも今年の立春が、過ぎたが、この2月の寒さは、積雪を伴い例年以上に厳しくこれほど春が待ち遠しいことはない。

毎年2月2日世界湿地の日のイベントをと考えながら、残念ながら未だに実行できずにいる。この日は、厳しい冬の寒さの中にあり、なかなか戸外のイベントとならない。

さて、この世界湿地の日とは、ラムサール条約が、1971年2月2日にイランにあるカスピ海南岸の都市ラムサールで開催された国際条約として採択されたことを記念して定められたもの。一般的にラムサール条約という名称で、知られている。この条約は、自然資源の保全と持続可能な利用に関する地球規模の条約としては、初めての国際条約だった。

ラムサール条約の当初の正式名称は、「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」だったが、その後、長年の議論を経て、生物多様性の保全や人間社会の福利にとって湿地生態系が、きわめて重要であることから現在では、「湿地に関する条約」と呼んでいる。

この条約は、国際的に重要な湿地及びそこに生息・生育する動植物の保全を促進することを目的とし、各締約国がその領域内にある湿地を1ヶ所以上指定し、条約事務局に登録するとともに、湿地の保全及び賢明な利用促進のために各締約国がとるべき措置等について規定している。

2016年時点の締結国は169カ国に上る。条約が、湿地保全のシンボルとして重視しているのが、「国際的に重要な湿地のリスト」である。世界中から2299カ所の湿地

がこのリストに登録され、日本からは、50カ所が登録されている。日本で最初の登録は、1980年6月タンチョウの生息地と知られている釧路湿原だった。それから40年近く経つが、四国には一か所も登録地が、無い。ラムサール条約潜在候補地の吉野川こそ、四国初の登録にふさわしいのだが・・・。

今年も一緒に頑張りましょう！



藤永知子

# 吉野川の思い出



写真 徳島県



私が生まれたのは中流域にあたる脇町で、北の阿讃山脈から南の吉野川へと広がる扇状敷の地形をなしている。脇町の中心を流れる大谷川にはオランダの技師デ・レーケの造った堰がある。

子供の頃の思い出は、夏休みに入る少し前 田舎の小学校にはプールなどは無く川へ泳ぎに行くのが学校の水泳訓練という授業であった。今でも思い出す、あの頃の竹藪がうっそうと繁り昼間も薄暗いその中は必ずというくらい黒蛇が竹にとぐろを巻いていた。ぎゃあーといいながら竹藪のなかを駆け抜けると大きな河原がひらけ 悠然とした吉野川の流れがあった。夏休みになると昼頃から夕方まで唇が紫になっても川に入りっぱなし、まともな泳ぎもできなかつたけれどとにかく楽しかった。

小学校の6年生と中学の2年間、一番川に通ったものだ。台風の度に大水が押し寄せ家畜の牛が溺れそうになって高台の神社に牛を避難させているのをみたこともある。スーパーマーケットが水につかり、後で水害品として使えるものは格安で売られていた。ノートの下敷きを友達とワイワイ言いながら10円で買った覚えがある。

川で釣った魚はたった一度だけある。それも釣り竿がわりに川傍の竹を切りテグスにハリ、えさはうじ虫だったと思う。私はとてもつけられず、友達につけてもらった。川に投げ入れるとまもなくぐぐっぐっーとひいて魚がつれたあの手応えは今でも忘れられない。どんな魚だったかもう忘れたけれど手応えのわりにちいさいなと思った。

一番川にかよった3年間も毎年大洪水がでて、旧穴吹橋も浸かるほどでそのたびに川底の石のあたる感触がちがっていった気がした。水の出たあとは泥がたまりぬるぬるしていた。 そのころ、上流で四国の水瓶といわれる早明浦ダム工事の真っ最中で、その様子を見に両親と行ったことがある。本当に広大で大規模工事に驚いたものである。

川はなんでも流してくれる。灯籠流しも昔は木の船にたくさんのお供え物をのせ流した。七夕飾りもお雛様もそして自分で処理出来ないゴミも、そこに込める意味は違ってもみな河原にもっていくか川に流していたようだ。今問題になっている拝原のゴミ処分場のことも、昔はあのあたりが北から流れてくる曾江谷川と吉野川の合流する河原だった。砂利や川砂の採集場があった。寂しいところで人家も無く、野焼きもされていた。きちんとしたゴミの収集の意識や環境が整っていない頃だ。

私をいろいろ川へ引っ張りだしてくれたワイルドな友だったけれど、後年そのよく遊んだ川で彼女は亡くなった。最後まで波瀾万丈な子だった。川の楽しさも怖さも体験出来た世代だった。

高い堤防ができて川との距離が遠くなった。

細川明子

## 撫養石のこと

「第十堰を探検しよう1月20日実施」で第十堰周辺吉野川下流右岸を歩いた。河畔林の植生を学び、越冬中の蟻螂（カマキリの意）二種類の卵を観察し、百舌の早贄が（さすがに川辺なので）蟹であったことに驚く。行成先生のわかりやすく、やさしい語り口の説明は、楽しかった。

河畔林の木をえぐり、その前に蹲る青石が、あった。青石ごろごろ、さりげなく何気なくある第十堰の石組み、構成は緑色〈緑泥〉片岩。正に美しい緑色である。松杭と石で持つ・・・堰。



撫養街道沿いの金毘羅神社の灯籠



十郎兵衛屋敷ゆるいカーブの石堀



川内の金毘羅神社の灯籠

ところで阿波にはもう一つ特徴的な石がある。「撫養石」と呼ばれる硬質砂岩。阿讃山脈に産出し、加工しやすく、おそらく地産地消なので、比較的安価で手に入れ易かっただろう石である。

撫養街道沿いの金毘羅神社、長谷寺（徳島藩が旅人の便宜と監視のために定めた8つの駅路寺の一つ）天理教会の石堀・石垣・石畳や徳島十郎兵衛屋敷を囲むゆるいカーブの石堀もまた撫養石。

さらに交通の大動脈 吉野川を通じで交流があり、中流域での藍の集散地として発展してきた脇町。現在、南町は国の重要伝統的建造物群保存地区「うだつの町」として有名だ。卯建のあがる表の町並みの風景もあるが、町屋の裏は高い石垣と各戸ごとに船着場に下りる石段が積まれていた。（川は当時町の南直下を流れていた）それももちろん撫養石だ。

藍作地として広がる吉野川の氾濫域の農家を守る地盤に積まれた石垣も撫養石である。

美しい青石と地味な灰色（砂色）撫養石は、徳島平野になくってはならぬ石として私たちの生活の傍らに限りなく存在している。

河野真理



## おいしい吉野川

# ヒラメ

吉野川は、第十堰より下流域は汽水域、淡水と海水が混ざった水域で、大雨の増水時以外は水底は海水が堰まで流入、表層から水底にかけて塩分が濃くなっている。

また、下流側へ行くほど塩分が多くなっている。

このため底に住む魚は、本来は海に生きる海水魚が住んでいる。

その中でもヒラメは美味で知られる人気者。

石ガレイの記事でも紹介したが、左ヒラメに右カレイ等と見分け方が有るが、通な見分け方として、口の中の歯が犬歯の様に尖っていること、これは小魚等の餌を補食するため。ヒラメの類に共通の特徴、カレイには目立った歯は無い。

河口域にはほぼ一年中居る。専門に狙う人は少いがキス、ハゼ、アジ、イワシ等を釣る時に釣れたり、若者に人気のスズキのルアー釣りに食いつくなどして捕られる。

水面に近づくと大暴れして逃げられることが多いが、比較的静かに上がってくるうちに玉網の準備をして、上がってくると一気にすくいあげると良い。

料理は刺身用に五枚下ろし、背骨から縁側にかけて丁寧に剥がすように包丁を入れるのがコツ、両側のヒレを動かす筋肉をエンガワと呼ぶ。集めて刺身としていただくと歯応え味共に良い。煮付け、焼き物にはブツ切り、小型はメの字の飾り包丁を入れて加熱。エンガワも忘れずいただくこと。

1 Kg 以上の大きいのが美味しい。

吉野川には 5Kg を越えるのも居る。

やはり刺身に平目の存在感が出る。

ダイナミックな鯛の料理をお楽しみに。

美味しい吉野川  
ごちそうさまでした。



さちのちち

## イベントお知らせ

2/12(日)	わたしは川の守り人 主催：吉野川シンポジウム
2/24(土)	干潟講演会【住吉干潟の宝物：シオマネキの生態と干潟のめぐみ】 主催：住吉・城東地区町づくり協議会
3/29~4/3 (木) (火)	吉野川を感じよう！ 2/2 世界湿地の日イベント とよとみコーヒーにて作品展 送り先・問い合わせ：藤永
5/13	初夏の住吉干潟を楽しもう 受付 10:00 開始 10:30~12:00
6/17	助任干潟で遊ぼう 受付 13:00 開始 13:30~15:00
7月下旬	市民干潟調査1 カニの生息数
8or9月上旬	市民干潟調査2 シオマネキ稚ガニ数

### 会員募集中 会費：1口1,000円

- お問い合わせ&お申し込みは事務局まで
- 振込先：ゆうちょ銀行  
吉野川ラムサールネットワーク  
口座番号 01640-6-52973

### 吉野川ラムサールネットワーク

- 事務局 藤永知子
- Tel：090-7268-9448
- Email：taikazann@hotmail.com
- HP：<http://www.yoshinogawa-ram.net>
- facebook 吉野川ラムサールネットワーク